

SORA

web magazine 2018.apr. vol.97

Travel

PHILIPPINES

MAP
CLICK!

BUSUANGA

SORA初公開！ フィリピン・ブスアングのバラエティに富むダイビング

PHOTO & TEXT : YASUAKI KAGII



カラミアン諸島は、フィリピン・パラワン島北方に位置し、パラワン州に属する島々の総称。その中でも今、最も注目されているのがカラミアン諸島の中心地、コロン・タウンが南部にあるブスアング島。ジュゴンスイムや保護区のアポリーフ、そして沈船ダイブに湖ダイブとバラエティ豊かな魅力を取り揃えている。まだ日本人ダイバーに馴染みの薄いエリアだが、リゾートホテルやダイビングセンターも充実。フィリピンの海で行き先を迷っている方は、是非、ブスアングも候補に入れて欲しい。

tsumi-shima tsumishima.com
ダイバーの夢をつみあげていく島



(株)ワールドツアープランナーズ
www.wtp.co.jp

© 2018
World Tour Planners Co., Ltd.
All Rights Reserved.



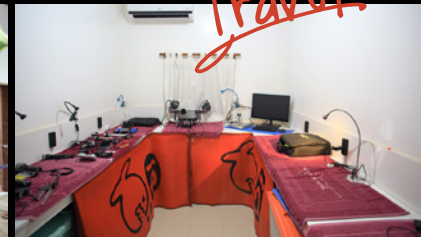
ねっ! しっかりしたダイビングセンターあるでしょう! & 沈船

BUSUANGA
PHILIPPINES フィリピン・ブスアンガ

Travel

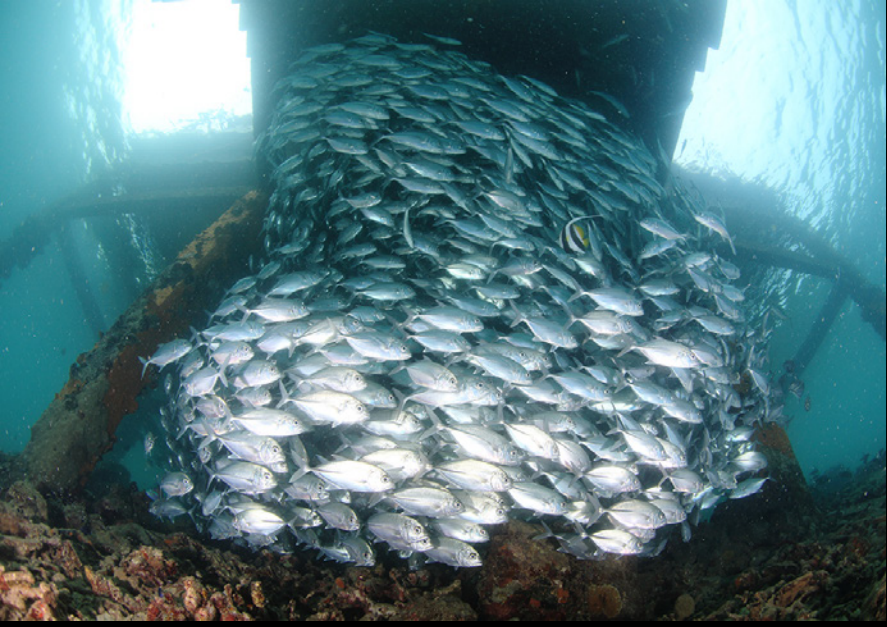
ジュゴンダイブセンター

長年モルディブで活躍していたドイツ人のダークさんがオーナー。「モルディブ後にフィリピンの海をたくさん潜ったけど、ブスアンガの海のバラエティ豊かな魅力を知って、ここに決めたよ!」と話してくれた。大型のパンガーボートやスピードボートを計5隻所有し、ブスアンガの海の魅力を紹介。ダイビングセンターは、大きなダイビングプール付き。スタッフも日本人ゲストの対応に慣れている。



1本目は、ブスアンガ島の北部に沈んでいる沈船に潜った。名前は旭山丸で、第二次世界大戦時に沈んだ旧日本海軍の物資供給船。水深30mほどの海底に鎮座する。マストのトップが14mほどで、船体はサンゴに覆われ、周りを泳ぐ魚影も濃い。船首に大きなマシガン（機関銃）の台座があり迫力を感じる。船倉には、1台の古い車だけがボツンとある。ある出入り口の奥は、壊れたスープボールが散在。簡単なベネレーション（船内捜索）もできる。外観に大きな破損は見つからず、船底に大きな爆発の跡があり、それも内部からの爆発と推定される破損の仕方だという。





エル・リオ・イ・マールのハウスリーフがやばい……

そして、エル・リオ・イ・マールに戻り、まだ夕方まで時間があったので、ハウスリーフで潜ることに。ダイビングセンターの桟橋からメインの桟橋まで約80mの距離があり、その間でのダイビングとなる。エントリーすると、まずサンゴ礁が海底に広がる。トップリーフは3mで緩やかな傾斜の地形。ガイドに付いていくと、ジョーフィッシュ、ニシキフウライウオ、ウミウシなどの黒い生き物を見せてくれる。そして、この名物はなんといってもギンガメアジの群れ。最初はどこにいるのかな?と思っていたら、メインの桟橋の下でグルグルと大きな球体になって泳いでいた。まるで、格納庫に収まった花火のよう。ゆっくりとその中に入っていくと、ギンガメアジの群れの中にすっぽり。そして桟橋の下からギンガメアジが出て行くと、まるで噴水のように溢れ出す。とても嬉しかったのは、彼らは私を置き去りにするのではなく、導いてくれるかのように一緒にいて、泳いでくれた。本当に素晴らしい体験だった。



生き物たちの楽園・保護区アポリーフへ！

2日目は、ブスアンガ島の北東、ミンドロ島の間の海にあるアポリーフへ遠征。リゾートからスピードボートで約1時間半。その場合は朝6時半集合。バンカーボートでは約3時間半。その場合は朝5時半に集合。最小催行人数は5名。デイトリップでここにダイビングにやってくるリゾートは2つだけで、あとは幾つかのダイブサファリなどもくるが、基本的にはまだあまりたくさんのダイバーが潜っていない、無垢なサンゴ礁といった感じ。1本目は、アポノースへ。エントリーしてまず、透明度の高さに驚く。そして、一面の手つかずのサンゴ。ワクワクせずにはいられない。ロープ沿いに潜降していると、ナポレオンが上を見ながら泳いでいた。青く落ち込むドロップオフには、カスミチョウチョウオオなどが群れ、ネムリブカがリーフの上を泳ぐ。水深40mでギンガメアジの群れを発見。しかし、深いと思い水深をあげてリーフの上まで上がってくると、小規模だがギンガメアジ&バラクーダに出会う。たまたま一緒にいるのかな?と思いながら、接近していくと、まるで同じ魚の群れか!と思うほど足並みを揃えて泳いでいる。後でガイドに聞くと、「一緒にいることが多い」とのこと。なるほど〜、ここでもギンバラ見つけました〜!

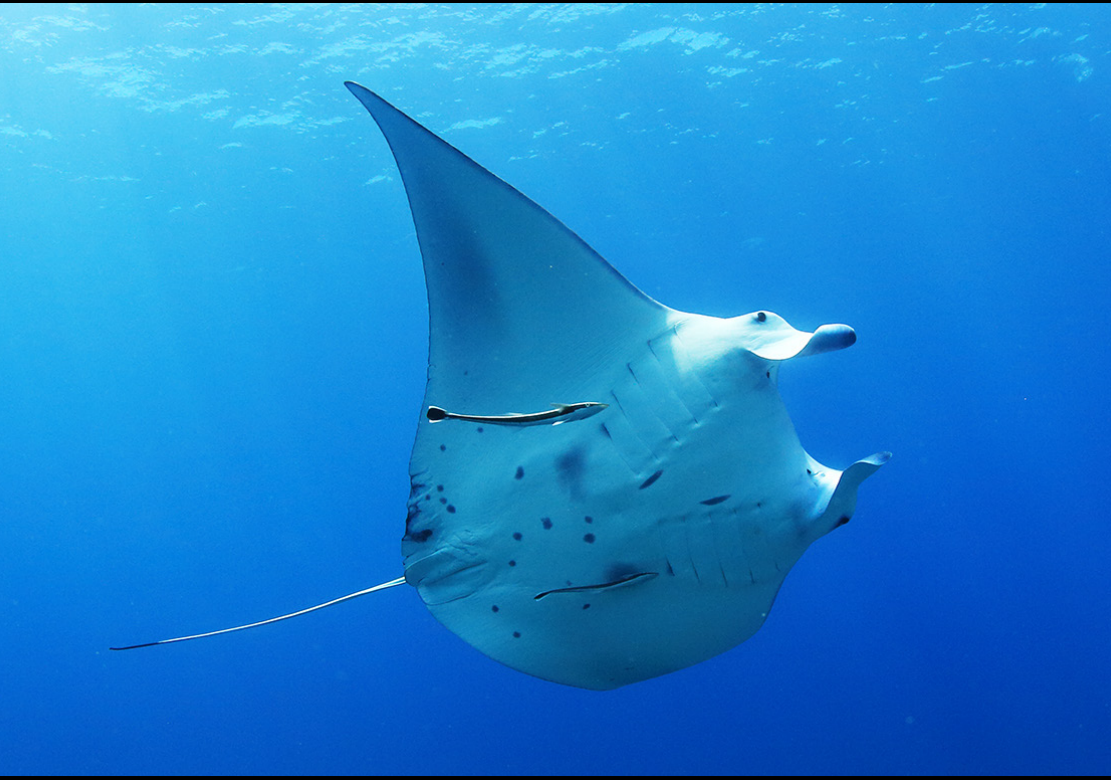


マンタとランデブー&憎いカメ

2本目はマンタポイントへ。水深20mの砂地とトップリーフが5mほどのリーフを潜っていく。砂地には、何匹ものネムリブカ。リーフには、ノコギリダイの群れやアオマスクのペアをたくさん見かけた。緩やかな潮の流れに乗って進んでいくと、前からマンタがやって来た。このポイントは、クリーニングステーションはなく、捕食にやってくるマンタがメインなので、どちらかというと、通りすがりに出くわす感じ。少し泳いで接近してみると、マンタは私の周りを1周してくれた。私は海の中で、カメラを覗きながらターンしていた。後からガイドが、「いいね〜」と微笑んでくれた。実は、先ほどのギンバラもマンタも昨日のハウスリーフのギンガメアジも、接近しても逃げない、というか受け入れてくれるように近くにいることを許してくれる。私が特別なわけではない。なんだかかわからないが、とても良い関係を築けていると思う。不思議な海中だと思う。3本目、

BUSUANGA
PHILIPPINES フィリピン・ブスアンガ
Travel

本当は、潮あたりの良いポイントで、またサメなどを狙いたかったが、あまり流れていないので、再びアポノースへ。同じように進んでいくと、またバラクーダの群れに囲まれる。ギンガメは少し遠くにいたので、今度は一緒じゃなかったらしい。そして、1本目もそうだったが、タイマイがずっとサンゴの隙間に顔を突っ込みながら、何か食べるものを探している。それもまるで逆立ちからの横転になる感じ。その様子がとても可愛い。もちろん、私がどれほど接近してもまるで気にしない。さすがにここまで無視されると、突いてやりたい気持ちになったが、やはりそれはぐっと堪えて、可愛いシャッターチャンスをただただ狙った。



tsumi-shima
ダイバーの夢をつみあげていく旅

We
World explorer





3日はジュゴンスイ
ムを楽しむことに。現
在、2か所でジュゴン
を見られる可能性が
あるとのこと。Dimipac Is は、50%の確率
で会え、とてもフレンドリーなジュゴンがいるら

BUSUANGA
PHILIPPINES フィリピン・ブスアンガ
Travel

しい。出会えれば、ハッピーだが、出会えないと何も無い。とのこと。リゾー
トからバンカーボートで、1時間10分。そしてもう一か所は、Malawig
Village という村の前の海域で、確率は80%。バンカーボートで約1
時間45分。今回は1日しかないなので、80%の確率で会える
Malawig Village を選択。ポイントに到着すると、ガイドさんと一緒に
スノーケリングでエントリー。2〜3分だったかな、あっという間に水深5
mの水底にいるジュゴンの影を発見する。ガイドさんに指を差されたが、
正直、最初はあまりわからなかった。しかし、近づいていくとシルエット
が明瞭になり、ジュゴンだとはっきり認識できた。

憧れのジュゴンスイム



いつまでもジュゴンが住む海で……

ガイドさん曰く、ブスアンガ北部に22頭ほどのジュゴンを確認しているとのこと。この Malawig Village には3頭のジュゴンがいて、そのうちの1頭があまりスノーケラーを気にすることなく、接近を許してくれるとのこと。海底で海藻をもぐもぐ食べる。そのジュゴンの顔の辺りには数匹のコガネシマアジが付いて泳いでいる。全体の色は地味だけど、どこかキュートで華やか。素潜りとジュゴンを追いかけるのは禁止されているので、呼吸のために浮上してくるタイミングで、横から接近していく……。尾をゆっくりと振りながら泳ぐ姿は、スタイルは良くないけれど、まるで人魚のよう……。他のボートのスノーケラーと観察を続け、2名ほど

のスノーケラーを乗せた船が来たので、一度海から上がる。そして、またみんながいなくなってから、今度は、ダイビングでの接近が許された。ジュゴンが来る進路を予測して、息をこらえて待っていると、もぐもぐ海藻を食べながら、ジュゴンが手の届く距離までやってきてくれた。ジュゴンダイブセンターでは、1997年くらいからジュゴンのウォッチングツアーを始めているそう。しかし、ジュゴンとこのように泳げるようになったのは、昨年くらいからのようで、きっとこの写真の個体の存在が大きいと思う。彼がいつまでも私たちに幸せをくれるように、優しくウォッチング&スイムを続けたい。

BUSUANGA
PHILIPPINES フィリピン・ブスアンガ
Travel





今回、お世話になった リゾート・エル・リオ・イ・マール

ブスアンガ島北部、スール海に面したサン・ホセ地区に位置するリゾート。美しい砂浜にバルコニー付きの建物や木材を多用した棟などが並ぶ。近代的な建物のCASAとコテージタイプのスーベリア、デラックス、ネイティブカバーナなどがある。客室の造りや内装はタイプにより異なるが、基本スタイルはナチュラルテイスト。しかし、温水シャワーはしっかりと出る(笑)。中央にレストランとプールがあり、食事はとても美味しく、シェフの盛り付けもセンス抜群。ダイビング以外のマリナクティビティも充実し、ゲストは皆スタンダップパドルボートなどを楽しんでいた。



BUSUANGA

PHILIPPINES フィリピン・ブスアンガ

Travel

4日目は、ブスアンガ島の北部を離れ、南部に移動。コロンタウの港から約10分。石灰岩の切り立った崖の奥に、海が囲われて出来た湖がある。淡水ではなく海水で、名前の由来であるバラクーダは、1匹だけ存在しているようで、見られたら超ラッキーと言う感じ。しかし、この見所はバラクーダではなく、他では体験できないダイビングを堪能すること。まず用意したのはラッシュガード。ウェットスーツは着ない方がよい。木製のトレイルを少しだけ登り、奥の湖へ。ダイビングでエントリー。切り立った崖が海中まで続き、不思議な景観が続いている。壁を右にしながら進んでいく。水温は28度。海と変わらない。しかし、水深15mを超えたあたりからどんどん温かくなり、水深20m～26mあたりでは約40度に……。正直逃げ出したいほど熱い!!!（これは、大袈裟な表現かも……）でも、暑がりの人は、結構笑えるレベルでこたえるかも。その水の層が変わる辺りではサーモクラインが発生し、ゆらゆらと景色が揺れている。温かい水温に慣れた体で、28度の水層に行くと、寒く感じ（不思議……）やっぱり、温かい方にと水深を下げてしまう……（どっちやねん！笑）。生き物の姿はエビやズレコの仲間のようなものを見ただけで、（もちろんバラクーダは現れず……）あまり生き物を楽しむようなダイビングではないが、不思議なサーモクライン&景観。そして熱めの海中温泉?を是非、楽しんで欲しい。

熱い！ 熱い！ バラクーダレイクの不思議



バラクーダレイク付近にも、ダイビングポイントはある！

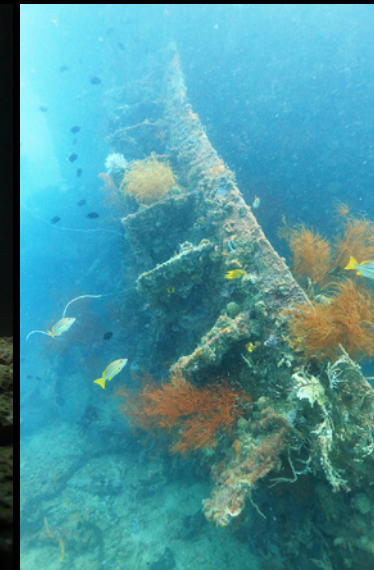
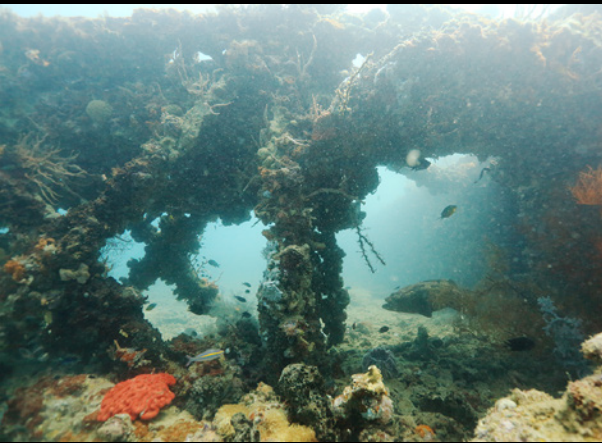
今回エントリーしたのは、まず「スケルトンレック」と言うポイント。戦争で沈んだ船ではなくて、荷物運搬用の船らしい。鎮座する水深は、20mから5m。船首から水面までロープが伸びているので潜降も安心。ビギナーから体験ダイブまでできるポイントで、気軽に沈船ダイブを楽しむことができる。海底には船の骨組みだけが残し、まるでクジラの骨のよう。

そこにハゼやウミウシ、ヤッコ、アカククリの幼魚などが、浅瀬にはオヤビッチャやスズメダイが群れている。もう一つのポイントは「CYC」。コロンタウンの沖合にある南の島で、周囲に広がる砂地でのダイビングとなる。とにかく砂地が真っ白で、そこに可愛いフグがたくさん。太陽の光も眩しいくらいで、癒し度満点。サンゴも健在で亀なども見られる。



旧日本海軍の艦船で潜る

ダイビングの最終日は、ブスアンガ島の南部、コロンの北部の間の海峡に沈むレックダイブにエントリーした。この周辺をコロンと呼び、第二次世界大戦中のコロン湾空襲により、日本の艦船が多く撃沈され、沈船（レック）ダイビングスポットとして知られている。沈んでいる艦船は、約11隻確認されていると聞いた。今回は2つの沈船に潜ってきた。秋津洲（あきつしま）は、水上機母艦。艦尾に35トン電動クレーンを装備。このクレーンが秋津洲型の最大の特徴で、その姿を海底で見ることができる。また、25mm3連装機銃もあり、未だ空を向いていることに感慨深くなる。ペネトレーションして、エンジン部分なども見に行くことができる。最大水深が40mほどで、平均水深が深くなるので、気をつけて潜って行きたい。興川丸は、特設運送船だった。比較的浅い水深にある沈船で、お魚たちの漁礁となり、船体の上には、サンゴやカイメンなどがたくさん育成している。大きなハタやプロペラ部分にはツバメウオの群れなどが見られる。簡単な船倉へのペネトレーションも可能で、中では当時のヤカンのようなものも見られる。日本の船が沈んでいるのに、沈船（レック）ダイビングポイントとして、日本人ダイバーにはあまり有名ではないのが残念。他にも趣の違ったポイントがあるので、是非、コンビネーションで一緒に潜って欲しい。



豪華リゾートで、地上も満喫！ ブスアンガ・ベイロッジ

ブスアンガ島南部、海岸沿いに位置するホテル。エントランスロビーから繋がるインフィニティプール&レストランからは、周囲の複雑な隆起珊瑚の山の連なりを見ながらゆっくりでき、このリゾートホテルの見所の一つ。小高い斜面に白亜の客室が複数建ち並び、室内は暖色系のベッドファブリックをあしらった上品なインテリアで整っている。カテゴリーは2ベッドルーム・ヴィラ専用プール付、ウォーターフロントキングルーム、クラブハウススイート、ベイビューバンガロー、ヒルトップスイートとあり、様々なゲストのニーズに応える。レストランの食事も抜群で、大変美味しい。緑溢れる敷地内は、傾斜が多いので、移動にはスタッフが運転する専用のバギーが巡回する。

BUSUANGA
PHILIPPINES フィリピン・ブスアンガ
Travel



沈船ダイブでお世話になった D divers



ブスアンガ・ベイロッジなど周囲3か所のホテルに滞在するゲストをケアするダイビングセンター。ドイツ人オーナーのギュンタが率いる。以前は、コロンタウンでダイビングセンターを構えていたが、それでは各沈船のポイントまで、2時間ほど掛かり効率が悪いと、より沈船に近い小島にダイビングセンターを構えた。ブスアンガ・ベイロッジからポートで2分。今回潜水した秋津洲や興川丸までは、ポートで約10分と沈船を目的に潜るにはお勧め。また、ツアーとして車とポートを利用したジュゴンスィムも行っている。